

県庁で営巣しているハヤブサのヒナ初誕生について

平成 17 年から県庁舎で営巣をしている県絶滅危惧種のハヤブサから、初めてヒナの誕生が確認されました。

1 ふ化について

- ・平成 26 年 4 月 21 日、営巣中のハヤブサからヒナ 3 羽が誕生したことを県庁職員が確認しました。
- ・今年は、3 月 24 日に 4 個の産卵を確認していましたが、このうちの 3 個がふ化しました。

2 ハヤブサについて

- ・タカ目、ハヤブサ科。
- ・希少種カテゴリー：県レッドデータブック絶滅危惧 I 類、国レッドリスト絶滅危惧 II 類。国内希少野生動植物種。
- ・生態：海岸部の生態系の頂点に位置する鳥。県内では能登半島と加賀地方の海岸で繁殖。

3 県庁でのハヤブサの営巣

- ・ハヤブサは、高所から獲物（鳥など）を探ることができる海岸近くの断崖に営巣する習性があります。県庁舎では平成 17 年から高層階のベランダに営巣していたもので、ハヤブサの営巣場所に適していたものと考えられます。
- ・県では、繁殖成功に向け、専門家の指導を受け、ベランダに砂を敷き、またブラインドを下ろし刺激しないようにするなど留意をしてきました。
- ・専門家の観察では、これまでも抱卵が確認されてはいましたが、ふ化には至ってありませんでした。
- ・都市部の繁殖成功は、全国的にも事例が少なく珍しいようです。

4 取材について

- ・ヒナの保護の観点からマスコミの現地取材は、ご遠慮ください。
- ・写真データを提供します。必要な社はお尋ねください。

請求先：環境部自然環境課自然共生グループ 外線 076-225-1476/内線 4264



エサをやる親鳥



ヒナの状況